

有野川の支川 八多川源流地帯を歩く

第 110 回武庫川エコハイク
2016.06.11 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなど）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川溪谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川溪谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

神鉄大池駅 昭和 3(1928)年、神戸有馬電気鉄道有馬線開通と同時に開業。

古々山峠 武庫川水系(有野川)と加古川水系(志染川)の分水界。大池駅前の県道上にある。県道は有馬温泉から南下して国道 428 号線となり平野を経て兵庫への有馬道である。

大池聖天 高野山別格本山、宝成山興隆寺。生駒聖天、清荒神と並ぶ三聖天の一つ。昭和 15(1940)年に神戸電鉄が生駒聖天を勧請した。

天下辻 標高約 450m。八多町誌によれば源義経が平家追討で一の谷に向かう途中この幡多明神に戦勝祈願し旗立石に旗を立て山を天下と名付けたという。天下辻の謂れであろう。

太陽と緑の道 神戸市自然歩道「太陽と緑の道」は、昭和 47 年、神戸の豊かな自然を気軽に散策し、人と自然のふれあいを図ることを目的に設定された。六甲山から帝釈・丹生山、そして雌岡山まで、北区・西区の太陽と緑豊かな地域を中心にしたハイキングコースで、現在、47 コースあり、総延長は約 176km となっている。今回は大池―天下辻―黒甲越えと黒甲越え―深谷のそれぞれ一部を歩く。ナダレ尾山周辺は土砂崩壊のため通行禁止となっている。

ナダレ尾山 標高 527.4m。その名のとおり現在ナダレ尾山周辺は土砂崩壊で通行止め。

大蔵(だいぞう)山と黒甲(くろこう)越え かつて奥蔵寺(おうぞうじ)があったといわれる大蔵山は奥蔵寺の山号であり、大蔵寺山周辺に伽藍があったといわれている。この辺りに六甲八多霊園がある。大蔵山は黄鉄鉱(黒甲)を産したので黒甲山とも呼ばれる。

屏風谷出合 屏風谷への分岐。大蔵山(黒甲山 452.8m)西側の屏風谷は加古川水系の屏風川、淡河川、志染川、美囊川となり加古川に注ぐ。

ピクニ池(手箱池) (伝承)昔、若狭の国に八百歳になる比丘尼がおり、寿命が長すぎ死ぬに死ねず全国を周遊しているうちに八多村の奥蔵寺についた。そしてこの池まで来て「この池の水は末代まで枯渇させない。この池の水が枯れたときはわが死と思え思え」といい残し池に飛び込んだ。その後この池の水は池の底を見た者はいないといわれている。

附物の大イロハモミジ 樹齢 100 年、樹幹 27m、樹高 18m、樹冠 25m。八多町保存木。

四つ辻の道標 黒甲越え道と湯の山街道の四つ辻に道標がある。

千本地蔵 等身大の地蔵尊。12 世紀ごろ附物地区に存在し大蔵山奥蔵寺にあったもので、後世になって千坊谷から掘り出してここに安置したもので千坊が千本になったものと思われる。近隣の人たちは病を癒すお地蔵さまとして祠に安置して崇敬している。

八多川流域の歴史 八多川流域は 1 億年前から 3 回にわたる火山の噴火で毎回噴火口跡に火口湖が出現した。それも堆積物で埋まった。最後の火山噴火の火口湖は古神戸湖といわれている。この古神戸湖が堆積物で埋まり神戸層群となる。その後 50~60 万年前に六甲変動が起こり北側が緩やかに高くなっている。丹上山地は火山活動のカルデラとして有馬層群を形成する八多川の南の分水界である。現在の八多川流域には東西の丘陵地(標高 200m 前後)にゴルフコース(東側に神有カントリー、(昭和 41(1966)年開場)西側にダンロップゴルフ(昭和 53(1978)年開場)がある。江戸時代から交通の要で山陽道、湯山道。巡礼道が通っていた。現在は中央部を神戸市道路公社の六甲北有料道路(北神バイパス)が中国道(神戸三田 IC)、山陽道(神戸北 IC)、阪神高速北神戸線、六甲有料道路(六甲山トンネル)と結ばれている。

八多川(はたがわ) 有馬川の支流有野川の支流。2 級河川武庫川水系の支川の一つ。丹上山地を源流として日下部付近で有野川に合流する。延長 5840m。

八多(はた) 渡来系の豪族秦氏の居住地だったところという。また平安時代に幡多下郷と呼ばれたことからの節もある。古代は物部氏の管承地といわれてがその後領主が転々と変わり、応仁の乱(15 世紀後半)の後には道場河原の松原城の松原氏の所領となり、八多川流域は江戸時代に刃三田九鬼藩の所領となった。明治 5()年の廃藩置県により兵庫県の管轄となり明治 22(1889)年の町村制実施により八多村となった。昭和 26(1951)年神戸市兵庫区に合併され、さらに昭和 48(1973)年には現在の北区八多町となる。

極楽寺 大乘山極楽寺。大日如来を本尊とする真言宗の寺院。12 世紀ごろ存在した大蔵山奥蔵寺の仏像、経典の一部が残存している。大蔵山奥蔵寺は 12 世紀ごろに京都洛北の紫雲山大雲寺(天台宗寺門派)の末寺として当時の荘園管理のために建立され、全盛期には千坊ともいわれる多くの僧房があったといわれ天正年間(1570 年代)羽柴秀吉の三木城攻めの際、焼失し荒廃した。極楽寺境内にある五重石塔は鎌倉時代(12~14 世紀)のものと考えられ頂部の相輪部分が一部が焼損しているが奥蔵寺にあったものと伝えられている。

附物(つくもの) 大工(番匠ばんじょう)などの作物所(つくものどころ)かの名と思われる。

藤原台 標高 382m の藤原山とその周辺が削られて神戸市北神ニュータウンの藤原台となった。昭和 60(1985)年まちびらき。藤原山の土砂は神戸沖の埋め立てに使われた?

神戸市北神ニュータウン 三田市と神戸市北区に広がる丘陵地帯に開発された神戸三田国際公園都市の一部で神戸市北神ニュータウンの藤原台と神戸リサーチパーク(鹿の子台平成 3(1991)年まちびらき、上津台、赤松台)でいずれも開発は UR 都市再生機構が行った。

吉尾城趾 吉尾の肉屋(山垣畜産)の前(南側)の丘陵の上部に吉尾の豪族の屋敷跡とみられる遺構が発見され吉尾城址とされている。16 世紀中ごろのものと考えられている。

田尾寺(たおじ) もともと地名の東尾路が「たおじ」となったという。

小名田(おなだ) 上、下がある。御名田で権門勢家の名田があった。下小名田には八多神社があり、物部守屋が創建したという。本殿、拝殿、鐘楼、長床が神戸市指定文化財。

刀匠国久 この地区には宗近家、国久家の刀匠がいた。国久家屋敷跡は国久橋の袂にある。

下小名田の大ムク 樹齢 200 年、樹幹 3.5m、樹高 15m、樹冠 1.6m。保存樹。国久橋の袂

神鉄道場南口駅 昭和 3(1928)年神戸電気鉄道三田線開通と同時に開業。